目白大学　健康科学研究
第11号　2018年　9－16

基礎研究

我が国の回復期リハビリテーション病棟における作業療法の説明

― 各医療機関のウェブサイトによる検討 ―

館岡周平　會田玉美
（Shuhei TATEOKA　Tamami AIDA）

【要約】

《目的》作業療法が医療機関のWSでどのように説明されているかを調査し，作業療法の理解を促す説明を検討することである．

《方法》対象は，回復期リハビリテーション病棟がある1127施設のウェブサイト内の作業療法の説明とし，得られたデータの分析にはテキストマイニングソフトKHcoderを用いて量的に検討した．

《結果》頻出語は「生活」「作業」「動作」「行う」「活動」「療法」「機能」「日常」「訓練」の順に多く，抽出語は全部で1077単語あり，出現頻度が9回未満の単語が734語であった．「生活」と「作業」が密接に結びつき，「生活」は「動作」「日常」「行う」と，「作業」は「療法」「障害」「活動」と結びついていた．

《結論》ウェブ上での作業療法の説明は，各医療機関で文章を工夫して作成されていたが，「生活」と「作業」を中心に，「日常」「活動」「動作」に関すること，生活課題の練習，自宅復帰への調整，作業療法士の関わり方についてわかりやすく説明することが適していると示唆された．

キーワード：ウェブサイト，作業療法，テキストマイニング

Ⅰ．序　論

厚生労働省による「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査」[1]の報告によると，リハビリテーションセラピストの充足を問う設問では，大多数が基準上は「充足している」と回答しているが，採算上・運営上の充足については，「充足していない」と回答した施設が半数程度ある．高齢化などの影響によりリハビリテーション（以下，リハ）を必要とするクライエントは年々増加しているが，アウトカム評価や診療報酬との関係で，収入と支出（人件費）のバランスを考慮し，雇用に対し消極的になる施設もあると考えられる．従って，一概にリハセラピストの需要が多いとは言えないが，クライエントに対し，十分なリハを提供するためには，多くの施設でリハセラピストの数が足りていないのが現状である．そのため，今後も一定程度の求人数は見込まれ，質のよいリハセラピストを採用するために広報活動も重要となっているといえる．

近年，我が国では，一部の病院が自主的な取り組みとして診療データを公開し，その情報をクライエントも参考にするなど，病院は消費者から選ばれる時代に変化している．その中で，インターネットが普及・発達した現在，医療機関のウェブサイト（以下，WS）はクライエントが最初にアクセスする病院などの窓口となっている．クライエントに選ばれる医療機関にするためや，職員のリクルート対策としてのWSは重要性が高いと考えられる．厚生労働省の発表では，高齢化の進展に伴い，現在，地域医療構想の策定が進められているが，回復期の病床の充実等の病床の機能分化，連携に対応するため，今後，理学療法士・作業療法士の需要が増加すると述べている[2]．このように，リハに注目が集まってきている近年では，WSにおける作業療法の説明も重要性がましていると推測される．総務省通信利用動向調査[3]によると，平成27年

たておかしゅうへい：目白大学保健医療学部作業療法学科
あいだたまみ：目白大学保健医療学部作業療法学科

の我が国の１年間にインターネットを利用したことのある人は１億46万人（推計）であり，日本の人口（６歳以上を対象）の83％となっていると報告されている．利用率は，13歳から49歳までは96％を超え，60～79歳のインターネット利用も上昇傾向を示しており，スマートフォンの普及などにより今後も増加すると予想される．

医療機関のWSの役割は，国民やクライエントに正確な情報が提供され，選択を支援すること[4]であり，クライエントは，その医療機関を利用することを前提に，知りたい情報を得る目的でWSに訪れる．しかし，求めている情報がみつからないことや提供されていないこと，期待していた情報と乖離がある場合は，その医療機関を選択しないことも懸念される．

作業療法の支援では，クライエントに作業療法の理解を促し，目標の合意を形成することが効率的な支援の第一歩である[5]．しかし，作業療法に対する一般市民の認知度を調査した報告では，作業療法という言葉そのものや，作業療法の内容に関する認識は低いことが示唆されている[6]．

以上より，一般市民の作業療法への認識が低い現状に対し，効率的な作業療法の支援を展開するためには，クライエントや他職種，社会に対しWSでも作業療法の理解度を高める努力が必要であると考えられる．

そこで，本研究の目的は，作業療法が各施設のWSでどのように説明されているかを調査し，作業療法の理解を促す説明を検討することである．

Ⅱ．研究方法

１．研究対象者

対象は，我が国の回復期リハビリテーション病棟協会[7]に加入（2017年４月３日時点での正会員）している全1127施設のWS内の作業療法の説明とした（2017年４月３日～５月15日の間にアクセス）．作業療法に関する説明が記載されていないWSや，理学療法や言語聴覚療法など他の職種の説明と混在している場合は対象から除外した．

２．調査方法

各施設のWSから作業療法のサイトを閲覧し，作業療法の説明が記載されている部分を抜き出し，Excelファイルにまとめる．

３．分析方法（図１）

得られたデータの分析にはテキストマイニングソフトKHcoder（Ver2.00f）[8]を用いた．テキストマイニングでは，頻出する単語を抽出し，さらにどのような単語と単語がともに用いられやすいかといった分析を行うことができる．従って，この方法を利用することにより，日本における作業療法の説明がどのように行われているかを量的に検討することが可能と考えられた．KHcoderとは，テキストデータを計量的に分析するために作成，公開されたプログラムソフトウェアである．本研究では，頻出語の中から，さらに頻出回数が多かった語句頻出回数が多かった語句（５回以上）のリストを用いて，語句と語句の結びつきを表示した共起ネットワーク，出現パターンの似通った語の組み合わせを表した階層的クラスター分析を用いた．共起ネットワークは円のサイズが出現数により変化しており，同じサブグラフに含まれる語は実線で，互いに異なるサブグラフに含まれる語は破線で結ばれている．また，階層的クラスター分析は，クラスター（集まり）の意味を考えながら読むことができ，データの中でそれぞれの語がいかに用いられていたのかを創造するためのヒントが得られるものである．分析に際しては，筆者は統計科学研究所が主催している「コレスポンデンス分析とテキストマイニング」にてKHcorderを用いたテキストマイニングの研修に参加することや，分析結果を確認後，再度同一の手順で結果を確認し，信頼性の向上に努めた．

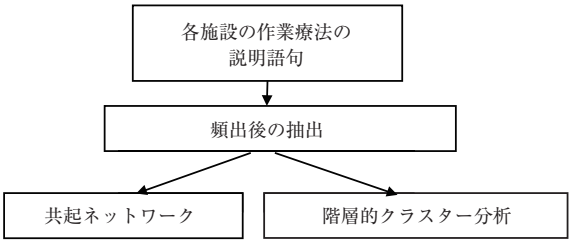

図１　本研究の分析の流れ

Ⅳ．結　果

全1127施設の中で，除外基準に該当しない521施設が本研究の対象となった（表１）．以下の結果は，同一の手順で２度実施し，同様の結果が得られている．

表１　各施設のウェブサイトにおける作業療法の説明語句　（一部抜粋）

施設番号	作業療法の説明語句
265	入浴や排せつなどの生活動作でお困りの方に対して，生活全般に関わる動作能力向上を目指して，身体機能や日常生活動作へのアプローチを行います．また，住環境整備や福祉用具の導入，介助方法の助言等，さまざまな角度から治療・指導・援助を行います．
266	作業療法は脳卒中や神経・筋肉にまつわる多くの疾患により障害をうけた方に対して，いろいろな作業や活動を通してリハビリテーションを行います．この作業や活動とは，食事・更衣・排泄・入浴などの日常生活動作，また手工芸・ゲームや音楽など生活全般にわたる広範囲なものです．作業療法士は，患者さま個々の心身の状態を見極め，その人らしく生活するために，どのような能力が必要なのかを判断し，患者さま個々に合わせた作業種目を用いて行います．
267	患者様に，できる限り自分らしい生活を送っていただくために，様々な作業活動を用いて，心身機能や食事・着替えなどの日常生活動作（ADL）の改善・維持を目指します．作業活動とは，食事・排泄・趣味活動・散歩・仕事・スポーツ・遊び・創作活動など，その人らしく生きていくために生活の中で行われる活動のことをさします．
268	病気や外傷で服を着る，トイレに行く，字を書くなどの日常生活に支障がある方に対し，様々な活動を通し精神面・認知面・身体面の機能の回復・維持を図り，ADLの拡大を行います．
269	食事動作や排泄動作，着替えや整容動作など，日常生活上の動作の獲得を目標とした運動療法や，手工芸や脳トレなど，精神・認知面の低下予防や高次脳機能障害の回復にも積極的に取り組んでいます．
270	作業療法では着替えやお風呂などご自宅を想定した日常生活の訓練を中心に行っています．また，家事動作や職場復帰のために必要な訓練及び園芸や書道などの趣味的な活動も行っています．
271	脳血管障害（脳卒中など），整形疾患（骨折，リウマチなど）を患うと，手足に麻痺が起きたり，病気による物忘れが生じたりすることで，日常生活に様々な問題が生じます．作業療法では，寝返りから食事・トイレ動作といった実際の日常生活場面を想定した訓練を行います．また，記憶力や集中力の低下などに対して認知機能訓練も行います．
272	障害のある方に対して，作業活動を用いて治療・援助を行い，主体的な生活の獲得を図ることを目指すリハビリテーションです．
273	作業療法では，各科診療科医師の指示に基づいて，上肢（肩，肘，手首，手指）の機能回復に努めるとともに，日常生活動作訓練，家事などの生活関連動作訓練，職業関連動作訓練などを行い，社会復帰に向けての援助に努めます．また，当院では特に手外科にも積極的に取り組んでおり，手術からリハビリまでの一貫したフォローを医師との連携を密にとりながら実施しています．
274	運動や作業を通じて，認知機能への働きかけや，関節機能の向上，日常生活活動（顔を洗う・箸を使う等の身辺動作，片手動作，趣味の開発など），を練習し，心身の残された能力を引き出します．

１．頻出語（表２）

頻出語は「生活」「作業」「動作」「行う」「活動」「療法」「機能」「日常」「訓練」の順に多かった．抽出語は全部で1077単語あり，出現頻度が９回未満の単語が734語であった．

２．共起ネットワーク（図２）

共起ネットワークの中心は「生活」であり「作業」と密接していた．そして，「生活」は「動作」「日常」「行う」と，「作業」は「療法」「障害」「活動」と結びついていた．そのほか，「機能」「回復」「身体」「精神」や，「障害」「治療」「指導」「援助」「獲得」，「脳」「高次脳」，「主体」「促す」，「指」「手」などが強く結びついていた．

３．クラスター分析（図３）

階層的クラスター分析では，出現した８クラスターの中で，１．頻出語で示した頻出語のクラスターの他に大きいクラスターが３つあり，１つ目は，「趣味」「練習」「病気」「必要」「応じる」「トイレ」「更衣」「整容」「家事」「食事」「入浴」が示され，クライエントに対する作業療法での生活課題と練習に関連していた．２つ目は，「福祉」「用具」「家族」「評価」「復帰」「向ける」「リハビリ」「病棟」「環境」「自宅」「退院」「調理」「自助」「上肢」が示され，自宅復帰に向けた調整に関連していた．３つ目は，「主体」「促す」「回復」「維持」「用いる」「援助」「治療」「指導」「身体」「精神」「障害」「獲得」が示され，クライエントの障害に対する作業療法士の関わり方に関連していた．

表2　抽出語リスト頻出150語一覧

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
生活	1124	高次	75	最大限	40
作業	854	自助	73	掃除	40
動作	750	用具	73	中心	39
行う	646	着替え	72	アプローチ	38
活動	550	目的	71	在宅	37
療法	508	疾患	68	主	37
機能	468	応用	66	状態	37
日常	448	自宅	65	体	37
訓練	437	病棟	64	着替える	37
障害	313	様々	64	遊び	37
患者	263	指	62	取り組む	36
回復	227	合わせる	61	道具	36
食事	227	上肢	61	骨折	35
必要	222	運動	60	自分	35
人	205	促す	60	手段	35
練習	203	対象	60	全般	35
家事	191	調理	58	予測	35
筋力	184	主体	57	介助	34
身体	182	提供	57	基本	34
トイレ	175	向ける	56	記憶	33
治療	172	応じる	55	具体	33
獲得	154	大切	54	持つ	33
指導	151	目標	54	低下	33
手	150	工芸	53	出来る	32
援助	145	実際	53	心	32
仕事	145	場面	53	サポート	31
精神	143	送れる	53	脳卒中	31
入浴	137	方法	53	運転	30
社会	128	お手伝い	52	家庭	30
脳	124	問題	52	買い物	30
用いる	116	実施	51	意味	29
目指す	109	身の回り	50	一緒	29

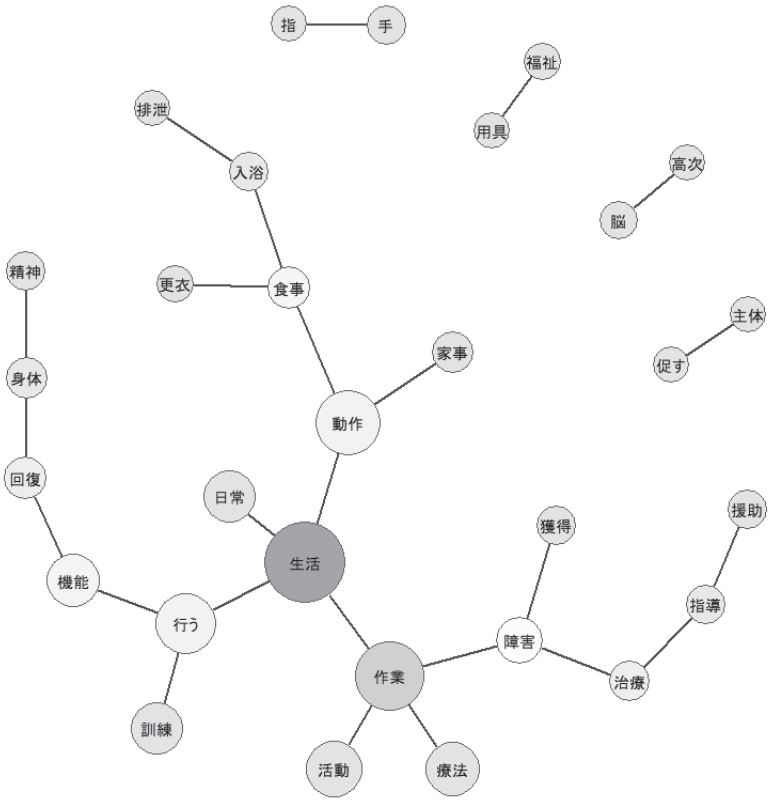

図２　各医療機関のウェブサイトにおける作業療法の説明に使用されている語句の共起ネットワーク

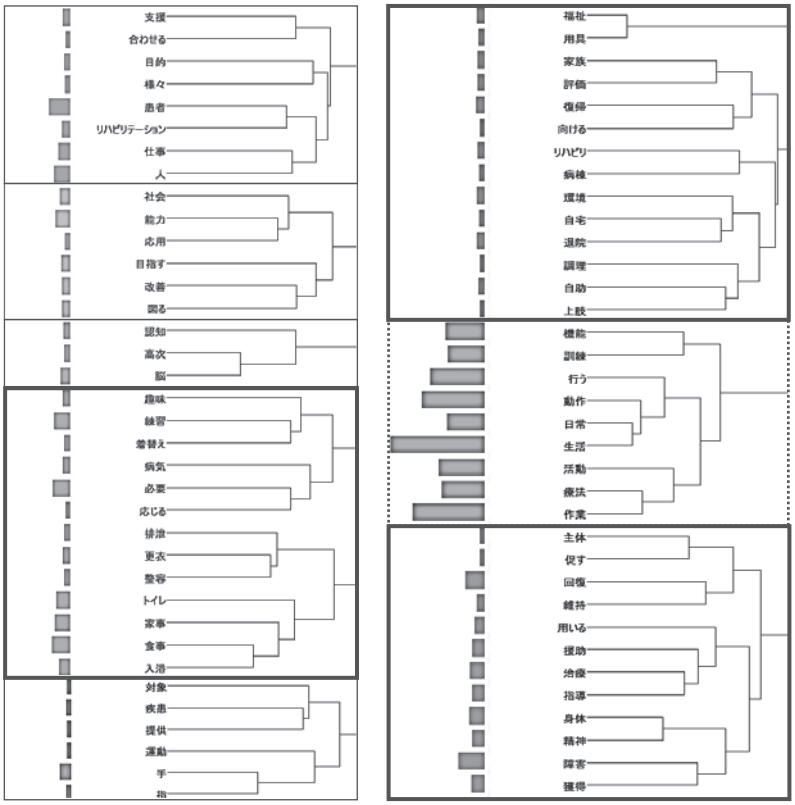

図３　各医療機関のウェブサイトにおける作業療法の説明に使用されている語句のクラスター分析の結果
（頻出語と同様のクラスターを点線の枠，その他で大きさが上位のクラスターを太線で示す）

Ⅴ．考　察

本研究では，WSという医療機関が一般公開している情報から作業療法の説明に関するテキストデータにKHcoderによる数値化操作を加えて量的分析を行った．選択する言葉や概念についてコーディングを変化させた場合，別の視点で検討できる可能性は残るが，日本の回復期リハ病棟における作業療法の説明を一定程度は網羅し，現在，WSでは，どのような説明がされているかを検討することができたと考えられる．

１．語句の結びつきと作業の定義との比較

「作業」は「生活」と密接しており，「日常」「活動」「動作」と隣接していた．つまり，我が国における多くの医療機関での作業療法の説明の際には「作業」と「生活」に「日常」「活動」「動作」を関連させながら説明されていることが示された．これらは，日本作業療法士協会による「作業」の定義[9]について述べられている，「日常生活の諸動作や仕事，遊びなど人間に関わるすべての諸活動をさし，治療や援助もしくは指導の手段となるもの」の内容の中に含まれており，多くの施設は，日本作業療法士協会の「作業」の定義に沿った内容が伝わりやすいと捉えていると考えられる．また，日本作業療法士協会における作業療法の定義改定に向けた第三次草案[10]の中で，「作業とは，個人や地域社会にとって価値や目的をもつ，日常生活活動，仕事，趣味など日々の活動を指す．」と述べられており，その人らしい生活や作業を行う価値や目的に焦点があてられるようになってきている．今後のWSでも作業療法は，個人や地域社会の価値や目的をもった活動への支援を行うという説明が増加する可能性がある．

２．本研究の結果と生活行為向上マネジメント，地域包括ケアの視点からの考察

「作業」が中心となり，様々な課題との結びつきがみられたが，クラスター分析より，作業療法は，主に，①クライエントに対する作業療法での生活課題と練習，②自宅復帰に向けた調整，③クライエントの障害に対する作業療法士の関わり方をウェブサイト上で説明していることが示された．ここから，多くの医療機関から，医療機関での作業療法の役割として，生活課題に対する評価や練習を行い，クライエントを主体に捉えながら自宅復帰に向けた調整を支援する専門職であると閲覧者に発信されていることが明らかとなった．日本作業療法士協会は，2008年度厚生労働省老人保健健康増進等事業を基盤に，国民にわかりやすく地域包括ケアに貢献できる作業療法の形を示すために，生活行為向上マネジメント[11]を開発している．生活行為向上マネジメントは，作業療法士の包括的な思考過程をわかりやすく表し，24時間365日をイメージしつつ，本人のしたい生活行為に行動計画の焦点があたるものであり，本研究の共起ネットワークやクラスター分析の結果も，「生活」と「作業」に，「日常」や「活動」，「動作」が密接に関わっており，作業療法のキーワードとして示されていた．つまり，作業療法について多くの医療機関のWSでは，生活行為向上マネジメントに含まれる作業療法の考え方や役割などの説明がされていると考えられる．

また，近年，地域包括ケアの確立を目指している我が国では，病院で長く治療するのではなく，早期に家庭や地域に戻り，病気になる前の環境で普通に暮らしながら，治療や療養をするように制度が変わってきており，本研究のクラスター分析より得られた３つのクラスターは，地域包括ケアに求められている役割と考えられる．従って，医療から，職業支援，生活支援までを総合的に支援できる専門職としての作業療法の説明と共通性が高いことが示唆された．

Ⅵ．本研究の限界と今後の課題

本研究では，作業療法の中でも回復期リハビリテーション病棟協会に所属している施設を対象としたため，身体障害領域の急性期や生活期，精神科作業療法や小児期作業療法など，全ての作業療法を網羅した結果とはなっていない．加えて，作業療法の説明が記載されていない施設があったことや，他の職種と混在している説明については除外したため，WSの作業療法の説明について網羅したとは言い切れない．

今後は，分析対象に急性期や生活期，精神科や小児期作業療法を含め，作業療法の適切な広報の方法と，各病院の作業療法の説明の際に重要な部分について検討したい．

Ⅶ. まとめ

回復期リハビリテーション病棟協会に所属している施設のWSを対象に，作業療法がどのように説明されているかを調査，分析し，作業療法の説明に適した内容を検討した．結果，521施設のWSが対象となり，作業療法の説明の際に使用されている語句1077語が抽出された．共起ネットワーク分析やクラスター分析より，WSの説明で作業療法について理解を促すには，「生活」と「作業」を中心に，「日常」「活動」「動作」に関すること，生活課題の練習，自宅復帰への調整，作業療法士の関わり方をわかりやすく説明することが適していると示唆された．

【文献】

1）厚生労働省：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査,（オンライン）<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000120212_6.pdf>（参照2017.7.11）

2）総務省：平成27年通信利用動向調査の結果（概要）（オンライン）<http://www.soumu.go.jp/main_content/000445736.pdf>（参照2017.7.12）

3）厚生労働省：理学療法士・作業療法士の需給に関する検討の必要性について,（オンライン）<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000120211_3.pdf>（参照2017.7.10）

4）厚生労働省: 医療機関のホームページの内容の適切なあり方に関する指針,（オンライン）〈http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002kr43-att/2r9852000002kr5t.pdf〉（参照2017.9,23）

5）澤田辰徳，斎藤佑樹，上江洲聖，友利幸之介：作業で結ぶマネジメント―作業療法士のための自分づくり・仲間づくり・組織づくり―，医学書院，2016.

6）澤田辰徳，建木健，藤田さより，小川真寛：一般市民における「作業療法」,「リハビリテーション」についての認知度調査，作業療法30，167−178，2011.

7）一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会：会員病棟一覧・情報公開（オンライン）<http://www.rehabili.jp/ward_list.html>（参照2017.7.14）

8）樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して，ナカニシヤ出版，2014.

9）一般社団法人日本作業療法協会：作業療法ガイドライン2012,（オンライン）<http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2013/08/OTguideline-2012.pdf>（参照2017.7.13）

10）一般社団法人日本作業療法士協会：第三次草案を含む参考資料,（オンライン）〈http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2014/05/teigi-material.pdf〉（参照2017.11.3）

11）一般社団法人日本作業療法士協会：生活行為向上マネジメント,（オンライン）<http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2014/12/MTDLP-panf2.pdf>（参照2017.7.10）

（2017年10月6日受付，2017年12月1日受理）

Explanation of occupational therapy at rehabilitation wards in Japan

—An examination of the websites of various medical facilities—

Shuhei TATEOKA[1], Tamami AIDA[1]

【Abstract】

Objective: The aim of this study was to determine how occupational therapy is currently being explained in medical facilities in Japan.

Methods: The study was based on the explanations of occupational therapy given on the websites of 1,127 rehabilitation wards. The text mining software KHcoder was used to perform quantitative data analysis.

Results: The most frequently used words were “lifestyle,” “work,” “action,” “perform,” “activity,” “treatment,” “function,” “everyday,” and “training.” A total of 1,077 words were extracted by the software, 734 of which appeared less than nine times.

Conclusions: Online explanations of occupational therapy were drafted by the medical facilities. Our results suggested that it is appropriate to explain a focus on lifestyle and occupation, with issues concerning everyday activities and actions, training for everyday tasks, preparing to return home, and patient’s relationship with his or her occupational therapist explained clearly and comprehensibly.

Keywords: website, occupational therapy, text mining

1）Department of Occupational Therapy, Faculty of Health Science, Mejiro University